

三陸の近景

7

「忘れない」をめぐって

津波の体験を話される方の口から「忘れたくても忘れられない」という声を聴いたことがあります。2011年の冬頃に仮設住宅を訪問した際に話された言葉なのですが、震災から3年を前にして、その言葉を思い返す機会が増えてきました。

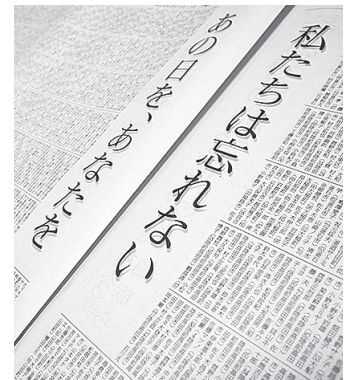
それは、東日本大震災の風化が叫ばれる今だからこそ「被災地を忘れない」と強調する報道を見聞きする時に思い返すのです。

実際に、以前と比べて被災地のニュースは、めっきり減ったように感じます。また、次々におこる自然災害によって、「被災地」が東北沿岸部だけを指す言葉ではなくなりました。

それでも東日本大震災は決して過ぎ去ったわけではありません。例えば、岩手県沿岸南部の地元紙一面には、震災以降、毎日、死者数、行方不明者数が記載されています。

2014年1月末時点で、大船渡市が死者340名、行方不明者79名、陸前高田市が死者1556名、行方不明者215名となっています。

震災から1年を超えてからは、人数に大きな変化はないのですが、どのようなトップニュースがあっても死者数、行方不明者数を示す情報は掲載されます。なぜなら、両市の行方不明者294名の家族や友人、関係者など数字を見守っている人がいるからです。



震災から1年の日に地元紙に掲載された死者名簿

震災によって、行方がわからなくなった方の関係者は、いくら時間が経とうとも、気持ちの整理や区切りをつけるのが難しい日々が続いていることでしょう。忘れたくても忘れられない方、あるいは忘れること、ひとときでも忘れたことに慚愧の念を感じられる人が多くいらっしゃるのです。

私たちは単に「忘れない」だけではなく、死者数や行方不明者数という数字の背後にいらっしゃる多くの「忘れられない人がいること」も忘れないようにしたいとあらためて思います。（金澤 豊）